

(3) 器具・住居に関する部品

主は「中心」の意味

主 三年 シュ
ス
ぬし

主で、あかりがシュウシュウと燃えている形を表わした字です。音はシュウですが、

ふつうは短く、シュと発音します。部屋の中心に置くので「中心」「ぬし(主人)」の意味に使います。

柱 三年 チュウ
はしら

家の中心になる木、という意味で「はしら」のことです。音は、シュウがなまって、チュウ

になりました。

注 三年 チュウ
そそぐ

川の水が、中心である海に集まり「そそぐ」ことです。

益 六年 エキ

皿は、さらの象形文字です。𠂔は、𠂔で、水です。益は、「皿に水がみちあふれる」ほ

どあるということで、いまでは、「物のたくさんある」意味に使います。

酉は酒がめの形

酒 四年 シュ
さけ

酉は酉で、酒がめの象形です。酒は、酉にはいった水、ということで、「さけ」です。酒

も酉も、音は酒の発酵する音、シュウですが、いまは酒はシュ、酉は

ユウです。

酸 五年 サン

夨(シユン)は「するどい」こと。酒がすくなくて、味がするどくなったのが、酸です。ついでに、俊はすぐれた人、駿はすぐれた馬、峻は、けわしく高い山のことです。

配 三年 ハイ
くぼる

己は、音がもと排と同じだったので、排列の意味に使われ、配は、「酒がめをならべる」意味を表わしています。

医 四年 イ

もとは醫です。医は、矢を入れる道具。爰は手に武器を持つ形です。醫は、「病気を

やっつける薬酒」または、それを扱う人のことです。

王は玉で王ではない

現 五年 ゲン
あらわれる

玉は王で、象形文字です。玉は美しくあざやかに見えるので、玉と見とで、「はっきり見える」「あらわれる」意味を表わしました。

班 半年

𠂔は𠂔で、刀のこと。ひもでつないだ玉(王)を、まん中から切ることで、「分ける」または「分けたもの」をいいます。班の音は半です。

判 六年 半年

半と𠂔ですから、「半分に切る」ことです。

むかしは、書きつけを二つに切り、別々に持って証拠しょうこにしました。いまでは、印判はんこが、この働きをするので、判はんというのです。

舟と船とどちらがう

船 三年 セン ふね

舟は、ふねの象形文字です。𠂔エンは沿エンで、「流れそに沿そう」ことです。船は、「流れそに沿そって下る大きな舟」のことで、上り下りのできる小さいのが舟です。

航 四年 コウ

亢は行です。「舟に乗って行く」のが航です。いまでは、「航空」など、飛行機にも使います。

兵 五年 へい

斤と六りく(171ページ)でできています。「手に手に武器を持つ」形で、「兵士」を表わしました。

新 三年 シン あたらしい あらた

もとは新シンで、辛と木と斤シでできています。「木を切る」ことで、「たき木(薪)」という意味

と、切り口の「あたらしい:意味とあります。

斗はますばかり

斗 ト

𠂔トは米を計る「ます」の象形です。柄えがついている「ます」です。

料 四年 リョウ

斗トで米の量を「はかる」ことです。音は量リョウです。食べるために計るので、「食べ物」の意味

にも使います。食料

科 三年 カ

「取り入れた禾イネの量をはかる」ことですが、これは品質に等級をつけ、分類するためです。ですから、「等級」「分類」の意味に使います。科の音は禾カです。

一はいえのしるし

家 二年 カケ やい え

一イチは、宀ヘで、いえのしるしです。豕シは、豕シで、ぶたの象形文字です。肉を食用にするので、「豚」と書きます。中国では、豚は人間生活になくはならないものだったので、どこの家カでも飼カっていました。

安 三年 アン やすい

女のいる家は、安定するという意味で作られた字です。

定 四年 テイ ジョウ さだめる

疋フは正の変形です。「家の中に正しくいる」という意味の字ですが、それは、「さだめ

られたところにいる」ことです。音のテイは、正セイ(セイジョウ)のなまったもの。

室 三年 シツ むろ

至シは、至シ。矢が地上に届いた形を表わしたもので、「いたる」意味の字です。室シツは、「人

至 六年 シ いたる

の至りとどまる家」という意味で、「へや」のことです。

守 四年 シュ ス まもる

「きまり(寸)を決める家」、つまり役所のことです。人々の生活を「まもる」所です。音は、

スンがつまってス。

完は天子の宮殿です

完 五年 カン

元は、二と人とでできています。二はむかしの上です。元は、「天子の住む家」ということ

になります。いまは、「かけたところのない」という意味に使います。

宗 六年 ソウ シュウ

示は、「先祖の神」です。宗は、「先祖の霊を祭ってある家」つまり、「本家」のことです。

また、本家は、頼りになる尊い家だから、「頼りになる」「尊い」という意味にも使います。宗教はそういう意味に使ったものです。音は祖の変化したもの。

察 四年 サツ

先祖の祭りは慎重に行わなければならない。それで、「しらべる」「念入りに見る」意味

に使います。音は祭の変化したものです。

宮 四年 キュウ グウ ク みや

呂は躬の略字。宮は、「身体を休める家」の意味ですが、いまは、「りっぱな建物」の

意味に使います。

広は大きな家です

店 三年 テン みせ

「店」は、一方が解放された家の象形です。「みせ」は、客が自由に出入りできるようになっています。音は占のなまり。占は、品物の陳列だなの象形にもなります。

庫 三年 コ

すぐに「車庫」だとわかるでしょう。いまでは、「金庫」「書庫」など、「倉庫」の意味に使います。

広 三年 コウ ひろい

店や庫のように、片方が解放されているので、「ひろい」感じがします。ムは公・弘・宏のムです。

度 三年 ド

むかしは、手(又)を広(广)げて、長さを計りました。廿は十を二つ重ねた形で、二十です。度は、「手を何回も、広げて長さを計る」ことです。いまはものさしの目もりから、温度や角度にまで使われています。

庭 四年 テイ にわ

廷は、朝廷です。「家からさし出たひさしのあるにわ」が、庭です。こういうにわは、朝廷にしかなかったもので、广と廷で表わしました。

府 四年 フ

付は、人と手で、「手をつける」、または

「あたえる」意味の字です。府は、政府が
そぜい 租税として手にしたイネ 禾をしまっておく倉庫で
 す。役所の意味にも使います。

付 四年 フ つける

氏は支です

底 四年 テイ そこ

𠃉は、物の傾いた形です。𠃉はつかえ
ぼう 棒で、𠃉は、意味がそのものだという指示

氏 五年 シ じ

文字のしるしです。氏は、「つかえ棒」、つ
 まり、「ささえ(支)」を意味しています。支は

「わかれ出る」意味がありますので、「一つの家から分かれ出たもの」を氏(支)といい、それを表わすための名のりが、氏になったのです。底は、傾きかかった家(𠃉)の土台につっぱりを入れた形です。「そこ」の意味に使われています。

屋と室はどうちがう

居 五年 キョ いる

尸は尸で、「人が腰かけている」形です。
 古(コ)は音を表わすだけです。

屋 三年 オク ヤ

「家に至って腰かけている」という意味の
 字ですが、いまは、室と同じく、「家」の意味

に使われています。

展 六年 テン

𠃉は音を表わすだけで、意味は、腰かけて、からだを「のぼす」意味です。

局 三年 キョク

屋と句とでできた字です。句は、むかしは
 回くちで、口を一かこみした形です。「ひとかた
 まりのことば」という意味の字です。局は、「ひと
 と区切りされたへや」の意味で、「役所の一部」

句 五年 ク

の意味に使います。音は、句と屋が合わさってキョク。

宣 六年 セン

𠃉は、へやの外の廊下の象形です。つまり、
 宣は、「廊下」「広間」のことです。むかし、

宮中では 詔みことりを、この宣で伝えました。だから、宣旨せんじというのです。詔は、広く国民に伝えるものですから、宣伝という使い方が生まれました。

寄 五年 キ ヨル

奇キは倚イの略字。倚いすは、倚子の倚で、「より
 かかる」こと。寄は、「身をよせる家」という意

味ですが、いまは、ただ、「よせる」意味に使います。

属 六年 ソク

禹ソクは蜀の略字で、続の意味。尸は、人の
 意味で、したがって、属は、「つながりのある

人」という意味です。いまは族と同じように使います。親属=親族

族 四年 ソク

𠃉は𠃉はたざおで、旗竿につながつた旗が風に

ひるがえっている形です。族は、「矢を背負った兵士が、旗の下に集まる」ことを表わした字で、「集まる」「仲間」の意味に使います。

旗 四年 キ はた **旗**に、音を表わす基キをつけた字です。

旅 三年 リョ たび **旅**は、**亼**と**人**で、つまり、**𠂇**と同じことです。旅は、旗の下に人の集まることで、「軍団」の意味です。のちに「行軍」の意味から、「たび」の意味に使うようになりました。

遊 三年 ユウ あそぶ 旗がひらひらおどるように、「子どもがあちこちと遊び歩く」ことを表わした字です。

用は柵の形です

用 二年 ヨウ もちいる 牧場の柵さくの象形です。「役にたつ」ので、「もちいる」意味に使いますが、「はちめぐらす」意味もあります。用心というのは、もちいるのではなくて、この意味です。

周 五年 シュウ **周**と**口**で、「口をめぐらす」こと。つまり「言(ことば)を十分に尽くして説明する」ことです。いまでは、ものごとのゆきとどいている意味に使います。用意周到

週 三年 シュウ

ます。

周は用と同じく、「めぐる」「めぐらせる」意味がありますが、さらに**冫**をつけたもの。いまは、曜日のめぐる「七日間」の意味に使います。